

## 文化の継承と文化的アイデンティティ

—国際結婚家庭の子ども（国際児）の場合—

○鈴木一代  
(埼玉学園大学人間学部)

### 【目的】

文化(言語)の継承と文化的アイデンティティは、国際児にとって、極めて重要な課題である。

「国際児としてのアイデンティティ」の前提条件である、二言語・二文化の知識の習得には、「居住国(地)の言語・文化」、「親自身の志向性」、「子どもの言語、文化、教育についての親の考え方(姿勢)」、「家庭の経済状態(家庭環境のなかのひとつ)」、および、「子どもの発達(年齢)および親子の相互作用」が関与する(鈴木, 2008 など)が、ここでは、「子どもの言語、文化、教育についての親の考え方(姿勢)」に焦点を合わせる。すなわち、子ども(日系国際児)の文化(言語)および文化的アイデンティティをめぐる日本人の母親の考え方を把握し、子どもの文化の継承および文化的アイデンティティとの関係について明らかにする。

### 【方法】

調査参加者は、ドイツ在住のバイリンガルの日独国際児(日本人の母とドイツ人の父をもつ子ども)5人(13歳~14歳、第1子、女子3人・男子2人)とその母親である。2009年にドイツ(M市)でフィールドワークと半構造化面接を実施した。また、日本語補習授業校において授業参観をおこなった。

### 【結果】

#### 1. 環境の主な特徴

①国レベル:二重国籍可(国籍法)、日本との関係は良好、日本人・日系国際児に対して比較的受容的;②地域レベル:国際都市、国内の1/4の外国人が居住、日本語に対する評価は中位;③日本人コミュニティ:なし、約1,000人の日本人(長期滞在者優位);④学校環境:外国人や多様な国際児が在籍(現地校)、ほとんどが日系国際児(補習校)、⑤家族構成:両親ときょうだい

#### 2. 日系国際児および親の主な特徴

①国際児:二重国籍、幼少時~現在まで現地校および補習校に在籍、日本への一時帰国経験がある、②親:母親の現地語は良好、日本人とドイツ人の両方との接触があり、日独の差異を明確に認識している

#### 3. 家庭内の言語使用の特徴

主言語はドイツ語か日本語、母親と子ども間は日本語、父親と子ども間はドイツ語

#### 4. 言語・文化習得(継承)

話す・聞く・読む・書くのすべてについてドイツ語優位でネイティブとほぼ同等。文化知識については現地文化が優位。両文化への文化帰属意識はほぼ同程度。

#### 5. 日系国際児であることへの評価および日本人の母親をもつことについての評価は肯定的

#### 6. 日本人の母親の子どもの言語・文化・教育などについての考え方

①子どものドイツ語・ドイツ文化習得は必須だが、日本語・日本文化の習得も望む、②ドイツ語は第一言語でドイツ人と同じレベル、日本語は第二言語、③現地校に通わせる、④一親一言語、⑤現地校での学習に配慮、⑥日本語・日本文化習得に積極的、⑦父親も子どもの日本語・日本文化の習得に積極的

### 【考察】

日本人母親は子どもに、第一言語・文化をドイツ、第二を日本語・日本文化と考え、一親一言語を基本に、子どもの両言語・文化習得に対して積極的な姿勢がある。子どもは、ドイツ語・文化が優位だが、日本語・日本文化も継承しており、両文化に文化的アイデンティティをもつ。

<引用文献>

鈴木一代(2008). 海外フィールドワークによる日系国際児の文化的アイデンティティ形成 プレーン出版  
[本発表は科学研究費補助金(基盤研究(C))「日系国際児のアイデンティティ形成とその支援のあり方に関する実証的研究」(研究代表者:鈴木一代)による研究成果の一部である]